



## 今週の T2 経済レポート

2020年11月13日

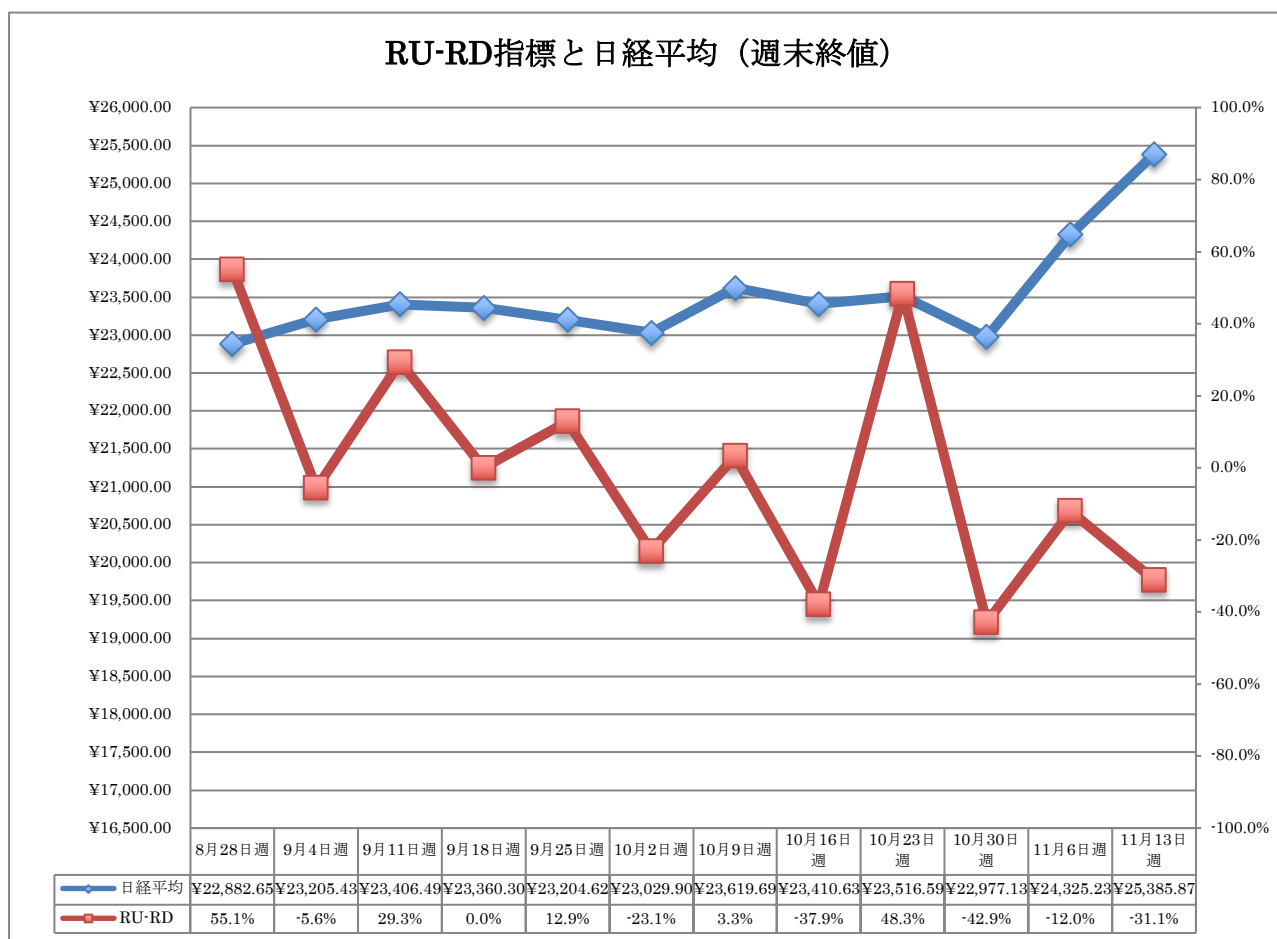
### ■■■ 市場ウオッチ ■■■

#### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は軟調相場が継続しそうな週です。今週(11/9~11/13)の相場を占う『RU-RD 指標』は10月30日週は-31.1%と、7月20日週~8月3日週以来となる3週連続マイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続する可能性を示唆しています。ただ、来週(11/16~11/20)の相場を占う11月6日週は+9.1%と4週間振りにプラス圏に浮上していることから急反発が期待できそうなかたちです。仮に、今週が軟調相場ですと来週の急反発が期待できそうですが、今週末13日にオプションSQを控えていることから投機筋が相場を支えるような株価操作をするようだと、来週の急反発の可能性も小さくなるため今週の相場は注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%と、9月4日週に今年1月20日週以来の上限ゾーンを達成後、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破しましたが再び足踏みしています。以前から『この調整が終了するといずれ米国市場を追うかたちで天井圏を示唆する+40%の上限ゾーンを目指す再上昇が予測されます。いつそれが始まるのかを注目する段階に移っています。』と指摘し、いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。ただ、まだ天井圏形成前の足踏み状態から抜け出していないことを示しています。

今週は、経済指標では、国内は、9日に9月景気動向指数、10日に10月景気ウォッチャー調査、9月の国際収支、11日に10月マネーストック、10月工作機械受注、12日に10月国内企業物価、9月機械受注、10月都心オフィス空室率、一方、海外は、10日に中国10月生産者・消費者物価、12日に米10月消費者物価、米10月財政収支、13日に米10月生産者物価、米11月ミシガン大学消費者マインド指数が予定されています。12日発表の10月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.3%と前月実績の+1.4%をやや下回る見込み。また、13日発表の米11月ミシガン大学消費者

信頼感指数速報値は82.0と、10月実績の81.8を小幅に上回る見通しで、新型コロナウイルスによる景気減速への懸念払拭ができるか注目です。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、9日に10月28、29日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」、13日にオプションSQ、一方、海外は、10日に米アップルが新作発表イベント開催、11日に中国で大規模ネット通販セール「独身の日」、ベテランズデー（退役軍人の日で株式、商品市場は通常取引、外為、債券市場が休場）。」とコメントしました。



10月23日週	10月30日週	11月6日週	11月13日週
¥23,516.59	¥22,977.13	¥24,325.23	¥25,385.87
48.3%	-42.9%	-12.0%	-31.1%

先週の日経平均は、高値 25587 円(11月12日)・安値 24541 円(11月9日)と推移、2週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、米大統領選挙の大勢判明と米製薬大手による新型コロナウイルスワクチン臨床試験の好結果を好感した他、ラガルド ECB(欧州中央銀行)総裁が追加金融緩和に前向きな姿勢を示したことを背景に昨年9月以来の8連騰と同時に、2週連続で上値目標値を

大幅に上回り、週間ベースで+1060円高と2週間で約2400円幅の大幅上昇で1991年11月以来29年振りとなる25000円台を回復して終了しています(先週予告していた上値メド23814円~24290円(+2%かい離)//下値メド23357円~22889円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、11月10日に25000円大台替えで仕切り直しが入り、12日に25500円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに2日間、従って、14日(土曜日のため猶予で16日)までに26000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、25000円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、8月13日に23000円大台替えで仕切り直しが入り、11月5日に24000円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに約3ヶ月、11月10日に25000円大台替えでカウントダウン継続に5日間、従って、15日(日曜日のため16日)までに26000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、24000円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、8月に23000円大台替えで仕切り直しが入り、11月に24000円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに3ヶ月、同月25000円大台替えでカウントダウン継続に0ヵ月、従って、11月中に26000円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、24000円大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑となり、短中長期全てが強含みに変化したものの、時間が限定されたことが大きな変化で目先上昇の最終段階を迎えたことを意味しています。

日経平均を左右するNYダウは、高値29933ドル(11月9日)・安値28902ドル(11月12日)と推移、前の週と異なり、前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米製薬大手ファイザー社が11月9日、「独ビオンテックと共同開発中の新型コロナウイルスワクチンの最終治験で、感染・発症を防ぐ有効性が90%以上」と発表したことが好感され2週連続で上値目標値を大幅に上回り、週間ベースで+1156ドル高と2週間で約3000ドル幅の急反発、終値ベースで9月2日以来となる29000ドル台を回復して終了しています(先週予告していた上値メド27685ドル~28238ドル(+2%かい離)//下値メド26324ドル~25797ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、11月9日に29000ドル大台替えで仕切り直しが入り、同時に、29500ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに0日間、従って、猶予で10日までに30000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、残念ながら実現せず時間切れ。30000ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28500ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、11月4日に28000ドル大台替えで仕切り直しが入り、9日に29000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに5日間、従って、14日(土曜日のため猶予で16日)までに30000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、11月に28000ドル大台替えで仕切り直しが入り、同月29000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに0ヵ月、従って、11月中に30000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、28000ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑、となり、中長期の強含みはまだ変わりませんが時間限定となったうえ、目先は

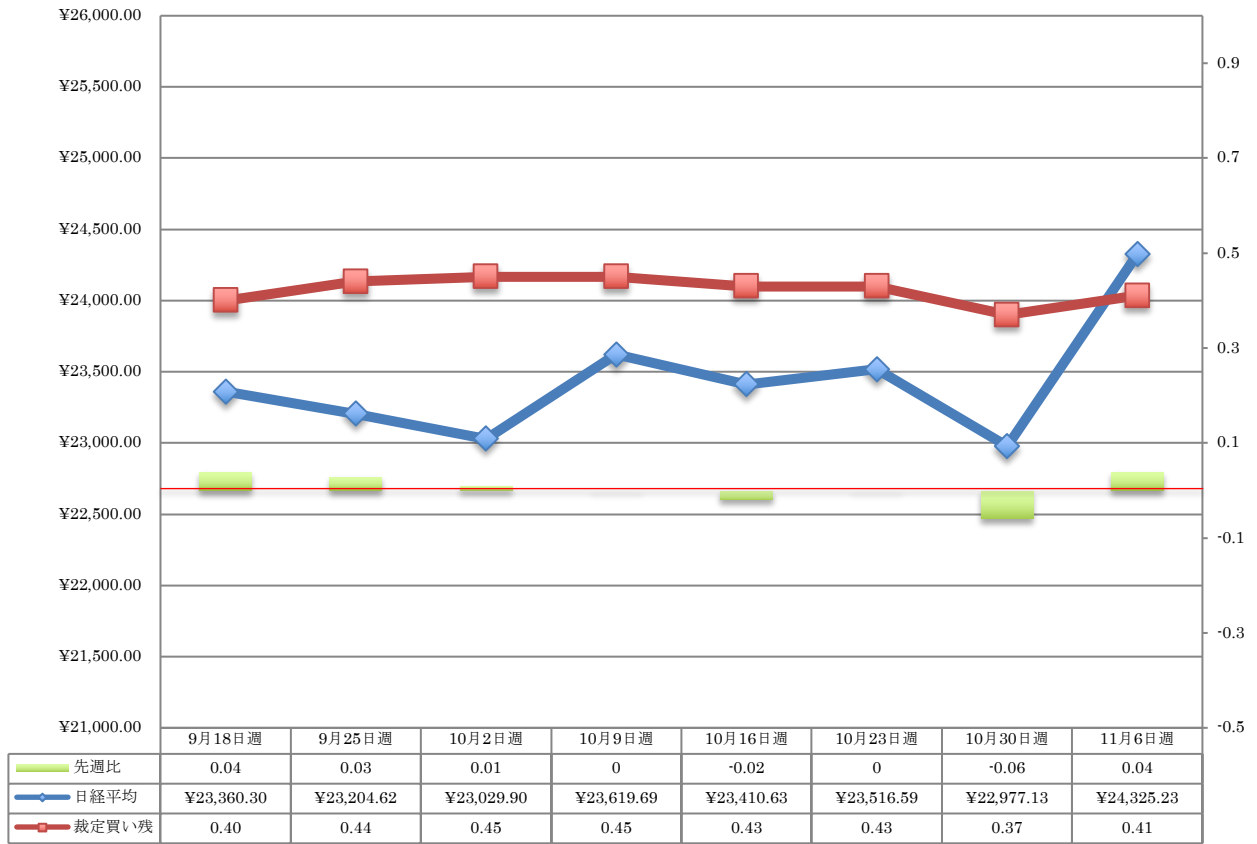
方向感がなくなり乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 105.67 円～103.18 円(先週予告していた上値メド 104.61 円～105.65 円(+1%かい離)//下値メド 103.39 円～102.35 円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成する乱高下の激しい動きでしたが、実質は 5 週間振りに円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.1919～1.1743(先週予告していた上値メド 1.1824～1.1942(+1%かい離)//下値メド 1.1625～1.1508(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成する2週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、125.14 円～122.64 円(先週予告していた上値メド 122.85 円～124.07 円(+1%かい離)//下値メド 120.73 円～119.52 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を上回り実質 5 週間振りに円安・ユーロ高。前の週の円>ユーロ>ドルからユーロ>ドル>円に変化しましたが、2 週連続でユーロがドルに対して強くなっています。欧州連合(EU)が 1.8 兆ユーロ規模の予算と景気刺激策の取りまとめに前進との報道で域内の景気見通しが改善し、ユーロ買いが一時活発となったかたちです。

## <裁定買い残・裁定売り残>

4 週間振りに増加。3 月 23 日週に今年 1 月以来となる 7000 億円台に回復した後、その反動減が続いています。一方、「裁定売り残」は、前の週比+1464 億円の 2 兆 380 億円と、2 週連続の増加。10 月 5 日週以来となる週間 1000 億円超、かつ残高 2 兆円台への増加で、10 月末に向けた売り崩しの大きさを示しています。現在はその反動の買い戻しの勢いが加速している局面で、来週発表分が注目されます。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 円億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

### 裁定買い残と先週比



10月16日週	10月23日週	10月30日週	11月6日週
¥23,410.63	¥23,516.59	¥22,977.13	¥24,325.23
0.43	0.43	0.37	0.41
-0.02	0	-0.06	0.04

単位:兆円

### 裁定売り残と先週比



10月16日週	10月23日週	10月30日週	11月6日週
¥23,410.63	¥23,516.59	¥22,977.13	¥24,325.23
1.91	1.88	1.89	2.03
-0.10	-0.03	0.01	0.14

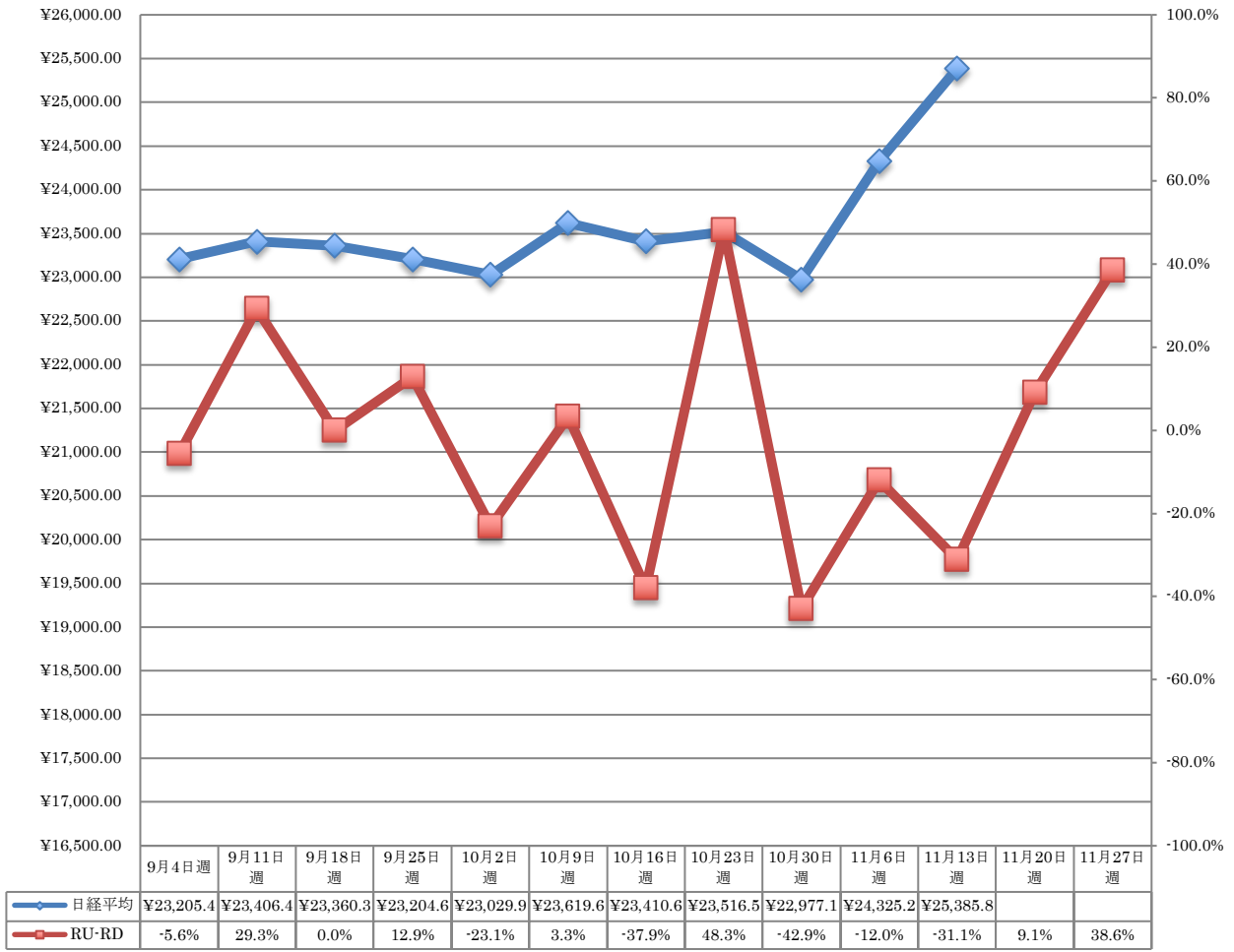
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は本来なら急反発が期待できそうですが、先週、本来、軟調相場のなか急上昇したため急反発は期待薄で堅調相場にとどまりそうです。今週(11/16~11/20)の相場を占う『RU-RD 指標』は11月6日週は+9.1%と4週間振りにプラス圏に浮上していることから本来は急反発が期待できそうなかたちです。ただ先週、『仮に、今週が軟調相場ですと来週の急反発が期待できそうですが、今週末13日にオプションSQを控えていることから投機筋が相場を支えるような株価操作をするようですと、来週の急反発の可能性も小さくなるため今週の相場は注目されます。』と指摘し、1991年11月以来29年振りとなる25000円台を回復したことで今週は堅調相場にとどまりそうです。来週(11/23~11/27)の相場を占う11月13日週は+38.6%と2週連続でプラス圏に浮上していることから堅調相場の継続が期待できるかたちです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%と、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破した後、足踏みしています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、『大台替えと時間の物理学的法則』では時間限定となっており、どのような目先天井圏形成となるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、16日に7-9月期GDP速報値、18日に10月貿易統計、10月訪日外客数、20日に10月全国消費者物価指数、一方、海外は、16日に中国10月工業生産・小売売上高、中国10月都市部固定資産投資、米11月NY連銀製造業景気指数、17日に米10月小売売上高、米10月輸出入物価、米10月鉱工業生産・設備稼働率、米11月NAHB住宅市場指数、18日に米10月住宅着工件数、19日に米11月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数がそれぞれ予定されています。11月17日発表の10月小売売上高は、大幅改善を示した9月の+1.9%をウイルス感染の再拡大の影響で大幅に下回る見込み。また、11月19日発表の11月フィラデルフィア連銀景況調査(製造業景気指数)は22.0と、前月の32.3から伸びは鈍化する見通しです。このほかのイベント・トピックスとしては、20日にAPEC首脳会議、21日に20カ国・地域首脳会議(G20サミット、22日まで)がオンラインで開催予定となっています。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



11月6日週	11月13日週	11月20日週	11月27日週
¥24,325.23	¥25,385.87		
-12.00%	-31.10%	9.10%	38.60%



## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 25867 円～26384 円 (+2%かい離)

下値メモ 24821 円～24324 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 30752 ドル～31367 ドル (+2%かい離)

下値メモ 28673 ドル～28099 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 105.08 円～106.13 円 (+1%かい離)

下値メモ 103.47 円～102.43 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1959～1.2078 (+1%かい離)

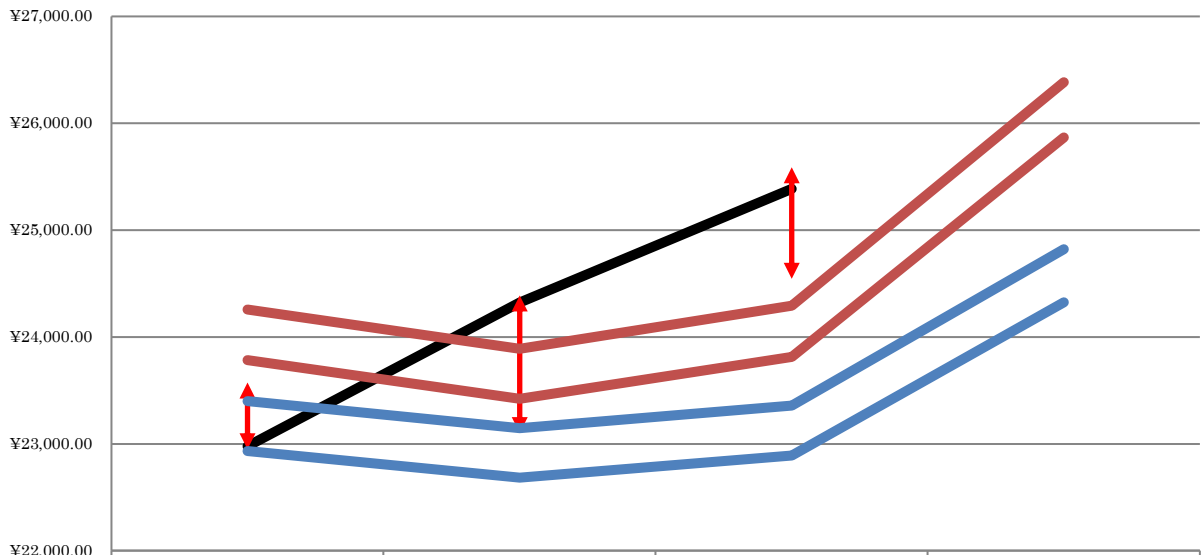
下値メモ 1.1702～1.1584 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 124.70 円～125.94 円 (+1%かい離)

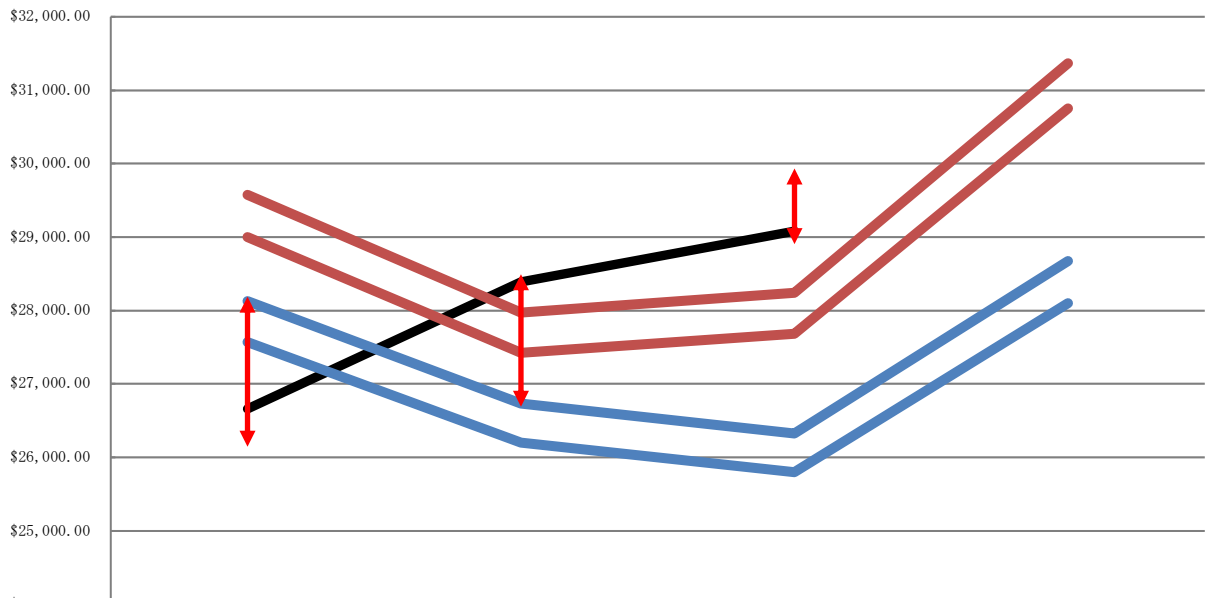
下値メモ 122.63 円～121.40 円 (-1%かい離)

### 日経平均



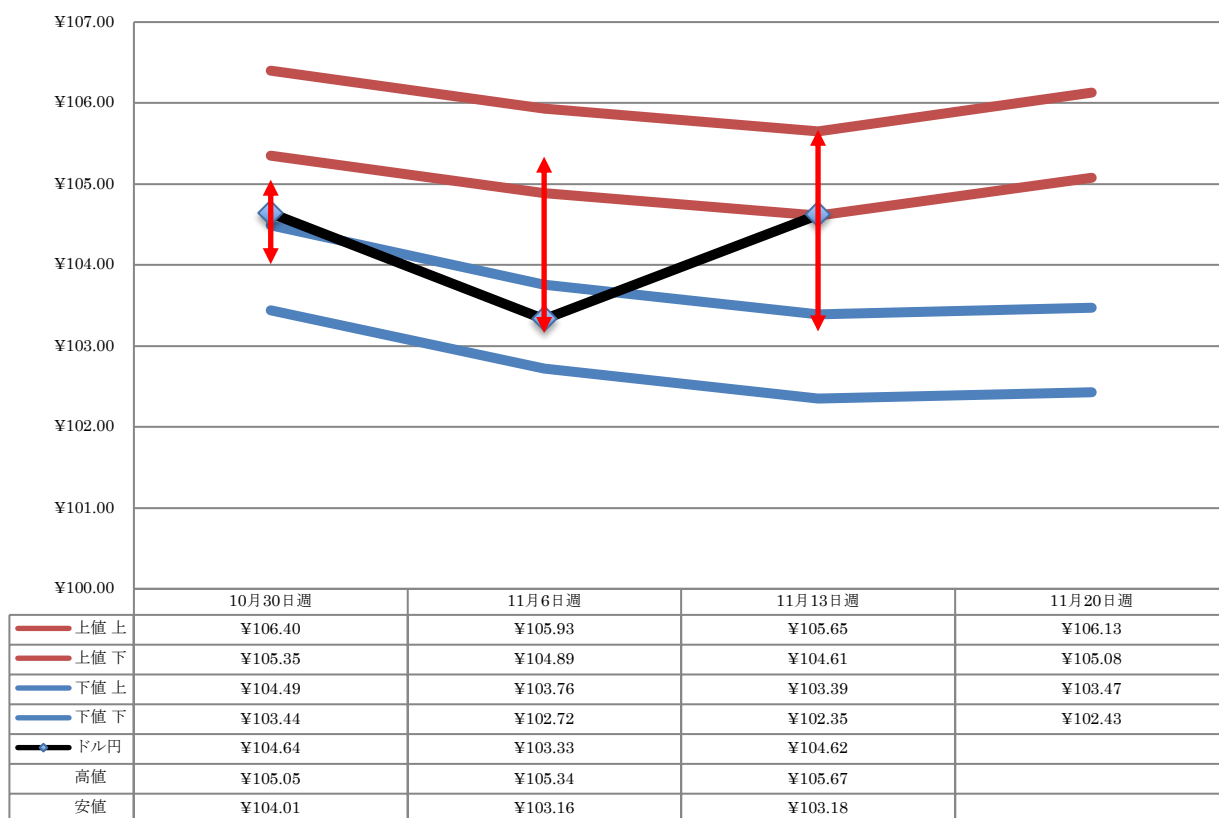
	10月30日週	11月6日週	11月13日週	11月20日週
— 日経平均	¥22,977.13	¥24,325.23	¥25,385.87	
— 高値	¥23,572.60	¥24,389.00	¥25,587.96	
— 安値	¥22,948.47	¥23,096.79	¥24,541.28	
— 上値 上	¥24,256	¥23,889	¥24,290	¥26,384
— 上値 下	¥23,781	¥23,421	¥23,814	¥25,867
— 下値 上	¥23,400	¥23,146	¥23,357	¥24,821
— 下値 下	¥22,932	¥22,683	¥22,889	¥24,324

### NYダウ

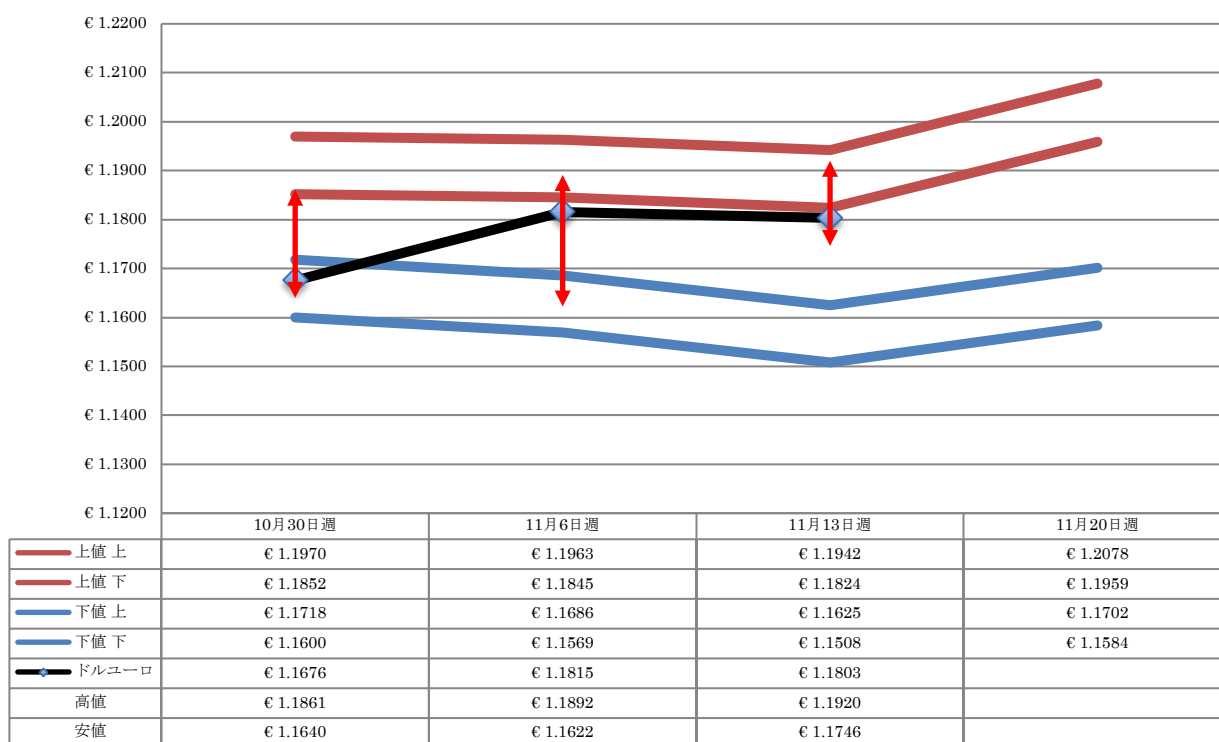


	10月30日週	11月6日週	11月13日週	11月20日週
— NYダウ	\$26,659.11	\$28,390.18	\$29,080.17	
— 上値 上	\$29,578	\$27,971	\$28,238	\$31,367
— 上値 下	\$28,999	\$27,423	\$27,685	\$30,752
— 下値 上	\$28,129	\$26,733	\$26,324	\$28,673
— 下値 下	\$27,566	\$26,198	\$25,797	\$28,099
— 高値	\$28,185.82	\$28,495.05	\$29,933.83	
— 安値	\$26,143.77	\$26,691.28	\$28,902.13	

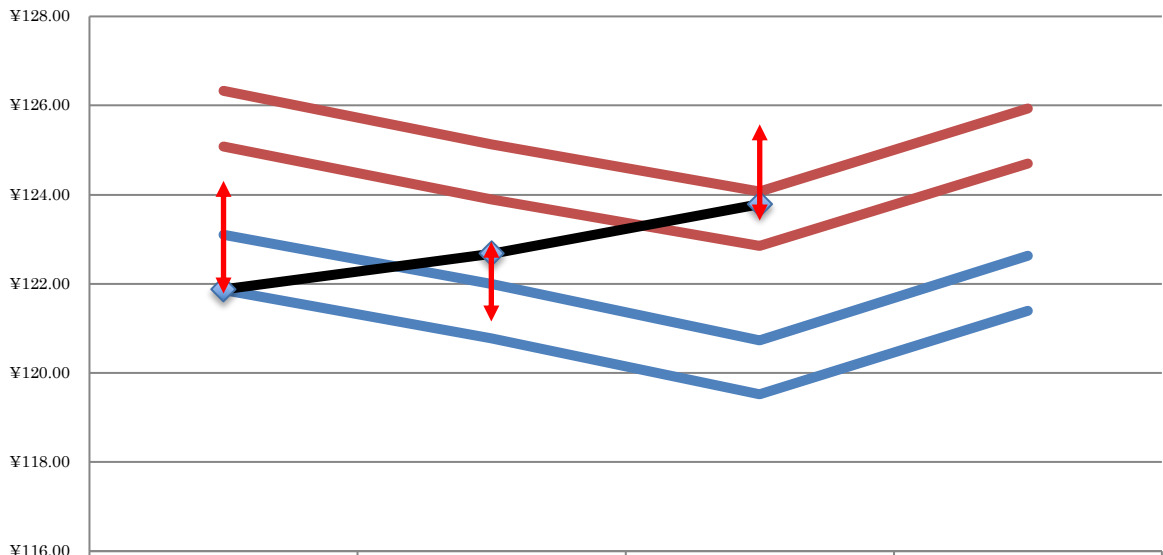
### ドル円



### ドルユーロ



## ユーロ円

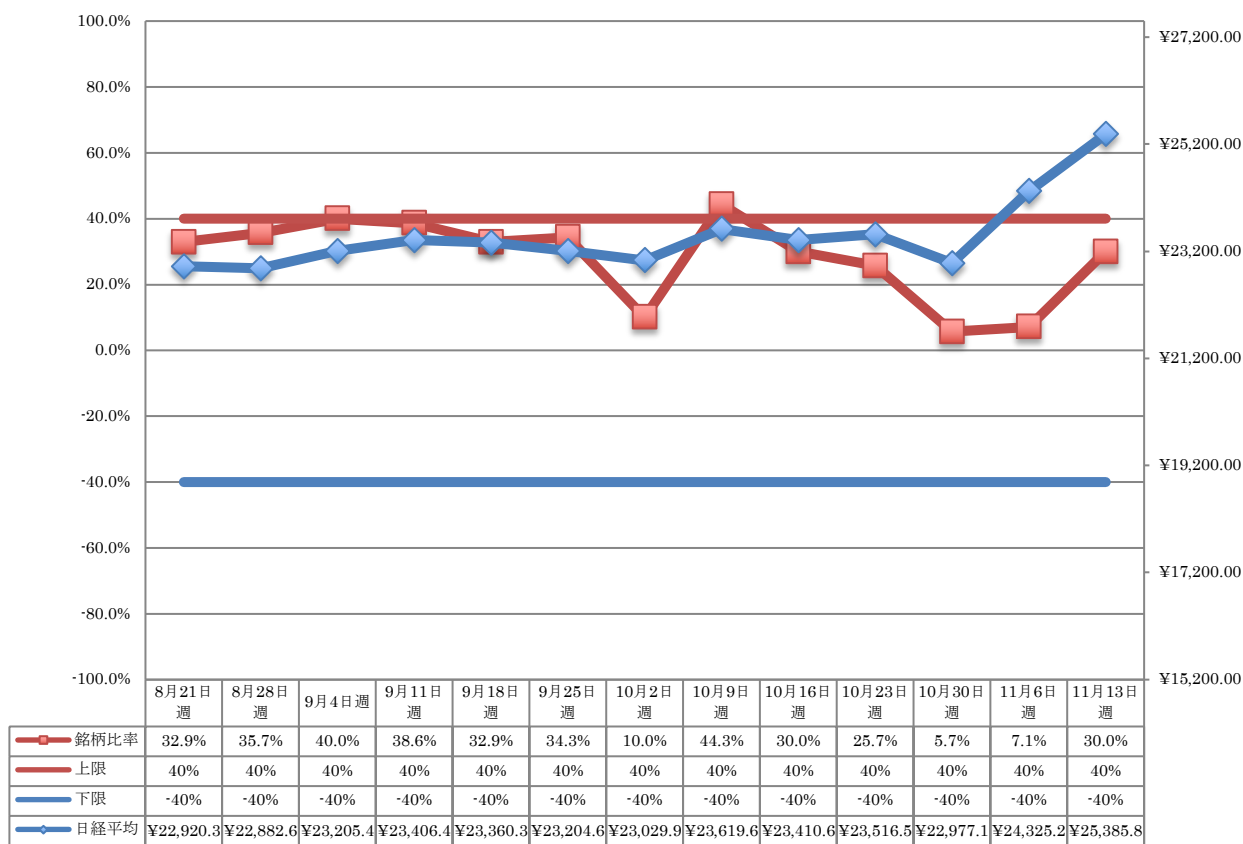


	10月30日週	11月6日週	11月13日週	11月20日週
上値上	¥126.33	¥125.13	¥124.07	¥125.94
上値下	¥125.08	¥123.90	¥122.85	¥124.70
下値上	¥123.10	¥122.00	¥120.73	¥122.63
下値下	¥121.86	¥120.78	¥119.52	¥121.40
ドルユーロ	¥121.87	¥122.67	¥123.79	
高値	¥124.31	¥122.95	¥125.58	
安値	¥121.78	¥121.15	¥123.42	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%と、10月9日週に2度目の上限ゾーンを突破した後、足踏みしています。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、『大台替えと時間の物理学的法則』では時間限定となっており、どのような目先天井圏形成となるのかが注目されます。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。